

初修外国語授業評価アンケートの中の自由記述欄には次の数の回答がありました。それらについて、以下に示す要領で選択し、公開します。

ドイツ語	87
フランス語	51
中国語	98
韓国・朝鮮語	90
合計	326

1. 中立性を期すため、英語担当の複数の教員が、複数指摘のあった意見を中心に選択しました。肯定的な意見も否定的な意見も取り上げています。結果的に、全回答のうち2～3割程度の回答が選択されました。ただし、選択された意見が必ずしも多数の意見というわけではありません。
2. 担当教員個人に関わるコメントについてはここには掲載しません。ただし、すべてのコメントはすでに全担当教員に対し個別に連絡してあります。

掲載に際しては、具体的な外国語名、個人名などは伏字とし、誤字・脱字などには必要最小限の修正を加えました。また、必要に応じて教員側からのコメントを添えました。

なお、自由記述欄に記載されたすべての回答(外国語別)は外国語教育センターワークステーションで自由に閲覧することができます。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

授業について

- 楽しくできました。一番予習・復習をした科目だと思えます。
- 覚えることはたくさんあったが、おもしろかった。
- 語は難しいけどおもしろいと思った。ありがとうございました。
- 勉強する前は、発音が難しいと聞いていたので不安もありましたが、前期の授業を通して発音も楽しく身につけることができました。
- 日本語と英語以外習ったことがなかったのでどんな感じが不安だったけど、実際に習ってみて不安もなく新たな見聞が広がって良かった。
- 語の文法基礎を学んで、だんだん授業を受けるのが楽しくなり、語に興味・関心が増していった。
- 語にしてよかったと改めて感じました。充実した授業だったように思います。もっと、語を勉強したいと思いました。
- 半年間楽しく勉強できました。の文化に触れることもできて良かったです。ありがとうございました。
- 語だけでなく、の国、文化に対しても興味をもつようになった。もっと語を使いこなせるようになりたい。
- 楽しくの言語や文化が学べました。
- みんなで楽しく授業をうけることができ、本当によかったです。
- 語は英語と似ていると聞いたことがあって、文法は理解できるだろうと思っていたけど、実際違っているところが多くて、難しかったです。
- 言葉だけでなく、文化などについても学びたかった。

【コメント】 文化を学ぶ

異文化・多文化理解というのは初修外国語学習における重要な目標の一つです。授業で使用している教科書もそのような理念に基づき作成されています。ただし、1年生前期の「語（総合基礎）」の授業では、何よりもまずその言語の基本的な運用能力の習得に重きを置いています。学生の皆さんには、継続的な学習を通じて多文化への視野を広めていって欲しいと思います。そのためカリキュラム作りにセンター全体としても努めていきます。

それから、これは宣伝ですが、外国語教育センターワークステーションには自習用の各種マルチメディア教材を取り揃えています。どんどんご利用ください。

- 人と日本人で授業に差がありすぎた。2人の先生で教えるのはいいことだと思うけど...
- 文法の授業より会話の授業の方が進みが早いのはいかがなものでしょうか。
- 2つの授業の内容があまりリンクできてなかったのではないかと思う。あえてそのようなやり方で進めているのかもしれないが、文法の知識なしに会話に入るのに、少し抵抗があった。

【コメント】 教員間のチームワーク

上記三つの回答は、ペアを組む二教員（ふつうは日本人とネイティブ）間の授業の調整についての批判です。二年続けて同じ点が批判されてしまい、心苦しい限りです。今回批判の集まった授業についても、こちらで把握していますので、早急に対策を講じることにします。

ところで、授業の進め方に落ち度があるような場合は、皆さんの方からも遠慮なくご指摘ください。直接言いにくい場合は、外国語教育センターワークステーションの「外国語教育ひとことノート」に記入していただいても結構です。

試験について

- 中間テストがあって楽になった。小テストもあってよかった。
- 後期もやっぱり中間試験を行い、期末へのウエイトを分担したほうが、どの教科にも取り組めると思っています。
- テストでは練習問題を丸覚えしていかなければならないような問題が多く問題だと思う。もっと考える問題を。
- テストが難しい。語のテストはマーク式らしい。不公平では...?
- 中間テストが難しすぎました。期末テストぐらいのレベルでやってほしかった。実は小テストが一番キツイ。

【コメント】 試験の難易度

上記二つの回答について。「試験が難しい」というのは学生の皆さんから常に聞かれる意見です。もし、実際に問題があるとすれば、その授業の到達目標レベルを遥かに超えて「難しい」という場合です。そうだとすればもちろん問題ですので、組織的に対応します。なお、「語のテストはマーク式らしい」というのは、確認しましたが事実ではありませんでした。

現在、初修外国語では、すべての中間試験・期末試験の平均点を出しており、極端な開きがある場合は調整することになっています。というわけで、「語は単位が取りにくい」という噂があるとしたら、本当に噂のレベルだということになります。

- 中間テストの範囲が、聞いていたものと違ったので、今後こういうことをなくしてほしい。

【コメント】 本当だとしたら基本的なミスですね。早急に対応します。

- 各先生によってテストで出るところを言ったり言わなかったりするのはやめてほしい。どうせなら評価基準よりもテストに透明性をもたせてほしい。やることがわかっている方が頑張る気も高まります。

【コメント】 試験の公平性

この回答も含め、試験の公平性に関わる疑問がいくつか指摘されています。試験範囲については、各外国語において試験前に「教科書××～××頁」のような形でお知らせしています。試験問題を教えるようなことはもちろんしません。察するに、先生が授業中に言った「ここは大切だから試験

に出ますよ～」といったような表現が疑惑(?)の源になっているのではないのでしょうか？！

- 語をとっている他学部(他の先生の授業を受けている人)は、テスト前に対策プリントをもらっていた。不公平だと思う。

【コメント】 試験対策プリント？！

これはどうやら 語が中間試験前に全学の学生を対象として(!)行なった中間試験対策の授業のことが問題となっているようです。誤解があるようですが、誰でも自由に参加できました。試験対策と言っても、もちろん試験問題をもらすことはしませんから、プリントは補助教材としての練習問題だったということになります。

成績評価について

- 先生に平常点のつけ方をおしえてほしかった。
【コメント】 早急に改善します。
- 補習はぜひやってほしいけど、平常点が満点じゃないと単位をくれそうにないので、そこを改善できないでしょうか？
【コメント】 平常点の重み？！
現状では、「中間試験4割、期末試験4割、平常点2割」というのが初修外国語の成績評価の基準です。平常点が満点じゃないと単位が出ないというのは...？！
- 語などに比べて点数が取りにくい言語だと思う。テストの平均点に大差があれば、点数調整すべき。
- 語は他の外国語より単位がとりにくいと聞くけど、公平にはならないのか。

【コメント】 外国語間の難易度？！

上記二つの回答について。そもそも点数が取りにくい言語があるのかどうかという問題は別として(多分、何を基準にするかによります)、成績評価の公平性・透明性は外国語教育センターが最大限の努力を払っていることの一つです。繰り返しになりますが、あらためてお答えします。

初修外国語では、すべての中間試験・期末試験の平均点を出しており、極端な開きがある場合は調整することとしています。というわけで、「語は単位が取りにくい」という噂があるとしたら、本当に噂のレベルだということになります。

補習について

- 中間の際の補習があっよかったです。
- 補習があっ本当によかった。単位が取れたら 先生に感謝します。
- 補習最高。
- 期末テストも補習をしてください。
- 期末にもある程度の補習をして欲しい。
- 期末にも補習制度をやった方がいいと思う。

【コメント】 期末試験後の補習希望者多数？！

上記三つの回答について。外国語教育センターでは、中間試験で合格点に達しなかった人(つまり、スタートの段階でつまずいた人)を対象に補習を行っており、これをきちんとクリアできた人は合格点に達したものと見なすということにしています。

上記の回答は、期末試験でも同様の措置をとってほしい、つまり、「期末試験でも60点未満の者に対しては補習を行なって欲しい、そして単位を出して欲しい」ということですね。結論から言うと、ご想像のとおり、いくつかの理由により不可能です。まず、時期的な問題があります。期末試験が終了したらすぐに成績を確定しなければなりません。新学期はすぐそこです！ それ以外に、外国語の成績評価は期末試験のみで行なっているわけではないということもあります。もっと根本的な問題もあります。期末試験は半年間の学習成果を試すものだという事です。というわけで、じっくりと時間を

かけて準備しましょう。

教材について

- 教科書が初修レベルとしては難しく、自主的に学習するのが困難だった。

【コメント】教科書について

外国語教育センターの行なう初修外国語の授業では、同一科目のすべてのクラスで同じ教科書を用い、同じ試験を実施しています。従って、使用する教科書については、事前に担当教員間で議論し、もちろん到達目標を考慮した上で決定しています。

ただし、教科書は確かに授業を前提として作成されていますので、必ずしも自習教材としては適していない部分もあるかも知れません。外国語教育センターワークステーションには自習用の教材も多数取り揃えていますので、ぜひご利用ください。

島根大学外国語教育センター